

第3学年2組男子 保健体育科(体育分野)学習指導案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石貝, 孝洋 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00025745

第3学年2組男子 保健体育科（体育分野）学習指導案

指導者 石貝 孝洋

1 学習のくり「ベースボール型球技」（27時間）

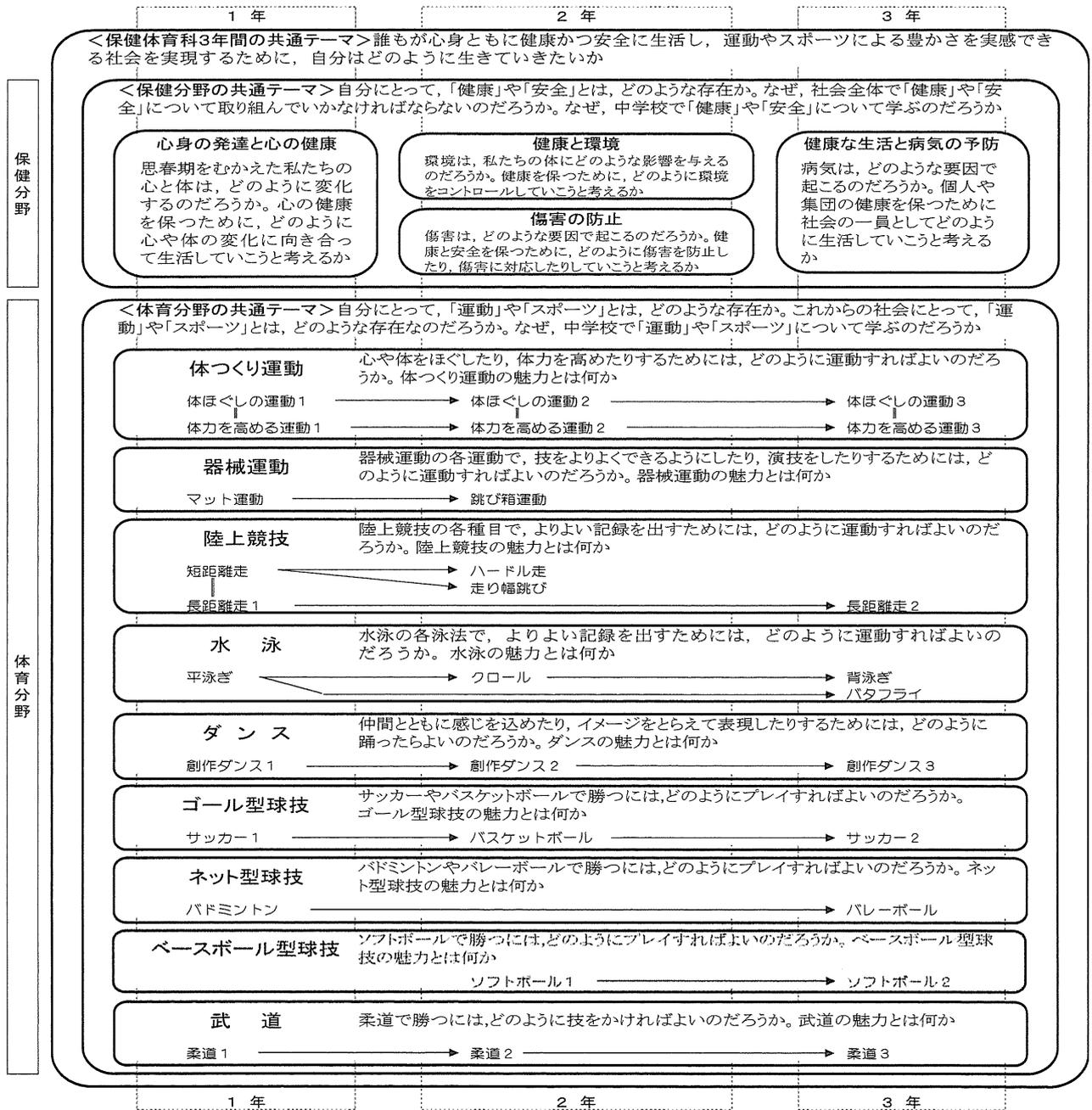
2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

保健体育科3年間でめざす姿

生涯スポーツや健康・安全上の課題解決に必要な実践力を高めるとともに、現在および将来における、自他の明るく豊かな生活実現に向けて、主体的に運動やスポーツを活用したり、自他の健康を保持増進したり、安全を確保したりしようとする生徒

保健体育科3年間の共通テーマ

誰もが心身ともに健康かつ安全に生活し、運動やスポーツによる豊かさを実感できる社会を実現するために、自分はどのように生きていきたいか



学習のくりの表記方法

学習のくり名(ゴシック体) 共通テーマ(明朝体)
学習内容(丸ゴシック体) → 学習内容(丸ゴシック体)

※保健分野の共通テーマ、体育分野の共通テーマ、保健体育科3年間の共通テーマは、学習のくりではなく、全体の学習の振り返りとして扱う。

3 学習のくくり「ベースボール型球技」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		育成する資質・能力の要素と 階層レベル		知識		スキル			情意		
				A	B	C	D	E	F	G	
				内容	方法	認知	身体	社会	興・関	追究	
ソフトボール1 (12)	ガイダンス(1)	《共通テーマと共通課題の理解》 ○ベースボール型球技とソフトボールの特性(1) ベースボール型球技に共通する運動の特性,ソフトボールの技術や戦術,基本的なルールやゲームの進め方,歴史について学習し,学習全体の見通しをもつ。また,学習計画表を提示し,共通テーマや共通課題について理解する。		3		3	-	-	3	2	
				4							
	つかむ学習(11)	○技術練習とゲーム(4) キャッチボール(ゴロ,フライの捕球など),トスバッティングを練習し,簡易なルールでゲームを行う。		1	1	1	1	1	2	2	
				2	2	2	2				
○チーム練習とゲーム(3) ソフトボールの基本的な戦術を学習し,ゲームで試す。		2	2	2	2	2	2	2			
		○ゲーム(4) チームで作戦を立て,ゲームを行う。		3		3	3	3	3	3	
ソフトボール2 (15)	つかむ学習(8)	○ソフトボールの特性(1) ソフトボールの技術や戦術,基本的なルールやゲームの進め方について学習し,学習全体の見通しをもつ。また,共通テーマや共通課題について再確認する。		1	1	1	-	-	2	2	
				2	2	2					
				3		3					
				4							
			○技術練習と簡易ゲーム(3) キャッチボール(ゴロ,フライの捕球など),トスバッティングを練習し,簡易なルールでゲームを行う。		1	1	1	1	2	2	
					2	2	2	2			
			○技術練習とゲーム(4) キャッチボールとトスバッティングを練習するとともに,攻撃と守備でのルールを学習し,ゲームで試す。		2	2	2	1	2	2	2
					2	2	2	2	2	2	
	追究する学習(6)	《追究課題の設定》 ○共通課題を受けた追究課題の設定(2) 自己や自チーム・他チームの特徴や作戦,戦術をもとに,追究課題(個人の技術やチームの仲間との連携で意識したり改善したりするべきポイント)を明確にし,作戦や戦術,練習方法を考える。		3		3	-	3	3	3	
		《追究活動》《交流活動》 ○総当たり戦のゲーム(4) ゲームとチームミーティング(ゲームの振り返りと作戦や戦術,練習方法の再検討)およびチーム練習を繰り返し,追究課題に取り組む。(本時3/4)		3		3	3	3	3	3	
つなげる学習(1)	《交流活動》《振り返りの記述》《振り返りの記述の交流》 ○これまでの学習を振り返り,共通テーマに対する自己の最適解をまとめたり,仲間との交流を通して考えを深めたりする。(1) 【期待する生徒の表れ】 ・ベースボール型球技の魅力について,自分なりの考えを記述している。 ・ソフトボールや野球などの今後の楽しみ方として,テレビでの高校野球の全国大会やオリンピック観戦などを挙げて記述している。 ・戦術や作戦という視点から,ベースボール型球技の楽しさについて語り合っている。 ・学習したことを生かして,昼休み,休日や将来の生活などにおいて,ベースボール型球技にかかわろうとしている。 など		4		4	-	2	3	4		

(2) 本学習のくくりでめざす生徒の姿とその姿に迫るための具体的な手だて

本学習のくくり「ベースボール型球技」は、プロ野球や高校野球の全国大会などを代表するように、国民に広く愛されているスポーツであると言える。さらに、友人や家族とキャッチボールをすることもベースボール型球技の楽しみ方の一つととらえれば、多くの人に親しまれるスポーツとして、生涯を通じたスポーツとのかかわりを実践できる可能性をもっていると考ええる。

本学習のくくりでは、個人やチームの能力に応じた作戦を立てるとともに、作戦に応じたバットやボールの操作、走塁やカバーリングなどのボールを持たないときの判断力や技能を高め、ゲームに生かせることを目指している。そして、チームの仲間と連携して攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わわせることで、生涯を通じてベースボール型球技を実践したり、観戦したり、サポートしたりといった「する・みる・支える・知る」の視点から個人の生活に応じて「ベースボール型球技」との豊かなかかわり方を学ばせていきたい。そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

チームや個人の能力に応じた作戦を立て、状況に応じた守備のフォーメーションやバッティング、安定したバット操作、連携した動きにより相手打者からアウトをとる攻防を展開することで、ゲームの勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、明るく豊かな生活実現のために、自らの生涯におけるベースボール型球技とのかかわり方について考えようとする生徒

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組みさせる。

まず、ガイダンスではベースボール型球技に共通する運動の機能的特性、効果的特性や構造的特性、ソフトボールの技術や戦術、基本的なルールやゲームの進め方、歴史になどについて学習し、学習計画表を示しながら学習全体の見通しをもたせる。さらに、本学習のくくりの共通テーマや共通課題を提示することで、おぼろげながらに学習内容を理解させる。また、学習計画表を示し、今後の学習の見通しをもたせる。

次に、つかむ学習ではソフトボールの基本となる技能の習得を目指して取り組ませる。これまで学んだ基本技能の上に、連携を意識したプレイや技術の習得を目指して学習に取り組ませる。例えば、二人組だけのキャッチボールだけではなく、四人組から六人組による速投練習や複数人が縦一列に並んでの中継プレイを意識したキャッチボールなどを取り入れることで、より実践に近い形で指導を行う。この時、どのように捕球や送球などのプレイをしたらよいか、またボールに直接かかわらない時にどのように動くことがより早くて効率のよい中継プレイが可能になるかをグループで考えさせる場を設定することで、練習を繰り返しながら技術を身につけさせていく。ゲームを行うためのチーム編成やルールづくりについては、自分たちが楽しめるように話し合いによって決めさせていく。あらかじめ示したルールを基盤にしながらも、固執することなく、前時のゲームやルールを振り返り、ルールを柔軟に変えていくことで、生涯スポーツの実践につなげていきたい。

追究する学習では、共通課題をもとに自ら追究課題を設定させる。ベースボール型球技の経験の有無や技能差があっても、生徒全員がソフトボールの魅力である攻防のおもしろさに触れ、楽しめるルールづくりや練習方法を考えていけるように、ルールづくりや練習方法について練り合う場を設定する。個人やチームの特徴、課題を明確にし、それを克服するための練習や、相手チームに勝つための作戦を話し合い、実践していく時間を設定することで、生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツとよりよくかかわる力を育成していきたい。

つなげる学習では、学習計画表に記入してきた気づきのメモを参考にさせながら、共通テーマに対する自分なりの最適解を見いださせる。

(3) 本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの 階層レベル)	ベースボール型球技で勝つためにはどのようにプレイすればよいだろうか (レベル $\boxed{3}$) ベースボール型球技の魅力とは何か (レベル $\boxed{4}$)
共通課題	個人やチームの特徴に適した作戦を立て、役割に応じたボール操作やチームメイトとの連携により、攻防を展開しよう。

4 本時について (本時 25 / 27)

(1) 本時の目標

【運動についての 思考・判断】	自己や自チームの特徴、相手チームの特徴を明確にし、作戦を立てることができる。 ($\boxed{A3}$ × $\boxed{C3}$ ・ $\boxed{E3}$)
--------------------	--

(2) 学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
<p>●教科委員を中心に附属中ラジオ体操と補強運動を行う。</p> <p>●学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。</p>	<p>・大きな声と動作で行うようにし、けが防止のため、十分に身体を温めさせる。</p>
<p>自己や自チーム、相手チームの特徴から作戦を立てて試合に生かそう。</p>	
<p>●前時までの練習内容や試合を振り返り、チームごと攻守においてよかった点や課題点について確認し、本時のゲームに向けての作戦を立てる。</p> <p>●作戦の実行に向けてチーム練習をする。</p> <p>●3年2組のオリジナルソフトボールルールでゲームを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・試合時間20分程度とする。(3～4イニング) ・四球(4ボール)あり。 ・タッチアウトなし。(アウトゾーンを設ける) ・進塁ラインを設定する。 ・攻撃は一順のみ。 ・捕手は相手チームから出す。 ・相互審判で行う。 など </div> <p>●チームで本時のゲーム内容について振り返り、作戦が有効であったかどうかについて振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※自己や自チーム、相手チームの特徴から、作戦を立てて試合に生かしている。</p> </div> <p>●本時の学習を振り返り、共通テーマについて考えたことや気づいたことを学習計画表の「気づきのメモ」に記入する。</p>	<p>・前時のゲームで明らかとなった個人やチームの特徴と課題と合わせて本時の作戦を立てるようにながす。</p> <p>○守備ポジションの位置やボールを持たない時の動きなどについてチーム全体で共有できるように、作戦板(ホワイトボード)を用い、視覚的に確認するように助言する。</p> <p>・互いの練習内容を確認し、グラウンドの使い方をキャプテン同士で話し合って決めるように指示する。</p> <p>○上手く練習が進まないチームには、技術的なポイントや既習のチーム練習の方法について確認するように助言する。</p> <p>・対戦するチーム同士が力を発揮できるよう、設定したルールについては、試合中に混乱しないように試合前に確認しておくように指示する。</p> <p>・試合中の好プレイや連係プレイが完成した時はチーム全体で認め合い、チーム内の雰囲気よくなるような声かけなどをうながす。</p> <p>○作戦の意図が実践できていない時や発揮できていないチームには、チームメイトがベンチに集まった際や試合中にチーム内で互いに作戦のポイントなどを伝え合うように助言する。</p> <p>・積極的に作戦板(ホワイトボード)を用いるようにながす。</p> <p>○打球の方向の違いに対して適切な対応が分からない生徒やチームには、打球の処理方法や個人の守備範囲などを作戦ボード上で視覚的に確認するようにながす。</p> <p>○技術的な課題が多く、連係してプレイできていないチームには、技術を向上させる練習方法の工夫を検討した上で、作戦の練直しを行うように助言する。</p> <p>◇本時の目標について、※印のような生徒の表れが見られたか。</p>